

# 退職手当問題の団体交渉は 12 月 13 日に開催

## 国家公務員の退職手当は 1 月から引き下げに

11 月 22 日に学長から「平成 24 年度人事院の給与勧告及び国家公務員の退職手当について」と題する情報提供が本学教職員に行なわれました。11 月 16 日に「国家公務員退職手当法」が改正されたことを受けての情報提供であり、内容をご存知の方も多いことと思います。ここでは、退職手当問題をめぐる動向をお伝えします。

## 2012 年 3 月公表の人事院調査と「退職手当法」の改正内容

人事院による調査は事務・技術関連職員について退職手当と共済年金の職域部分を加えたものを、民間の退職金・企業年金等と比較する形で行なっています。国家公務員の平均は 2950 万 3 千円（うち退職手当 2707 万 1 千円）、民間は 2547 万 7 千円との調査結果から、官民格差を 402 万 6 千円としています。ただし、給与改定時のような民間の学歴・年齢・職階別の調査結果はなく、今回の比較はそうした要素を加味したものではないと推測されます。

これを具体化するために、改正「国家公務員退職手当法」は 2014 年 7 月までに退職金を 14.9%(402 万 6 千円/2707 万 1 千円)下げるとしています。その方法は、支給月数の調整率(退職手当法第 3 条から第 5 条までに規定する支給月数を調整するもの)を次のように引き下げるものです。

現行 104

2013 年 1 月 1 日より 98 (現行に比べて 5.8%減)

2013 年 10 月 1 日より 92 (現行に比べて 11.5%減)

2014 年 7 月 1 日より 87 (現行に比べて 16.3%減)

最終的に 14.9%より大きくなっている理由は不明ですが、級ごとに決められている調整額(国家公務員退職手当法第 6 条の 4)の変更が行なわれないことと関連があると推測されます。

では、この変更で退職金はどれだけ減るのでしょうか。

退職手当は「基本額(退職日の俸給月額×退職理由別・勤続年数別支給率)+調整額」で計算されます。変更されたのはこの支給率です。なお、調整額は在職期間中の所属級に応じた調整月額(6 級では 33,350 円、5 級では 25,000 円)の 60 月分ですが、減額の対象にはなっていないため詳細は省略します。

さて、勤続 35 年で定年退職した場合を想定すると、支給月数は現行で 59.28 月です。退職日の俸給月額が 42 万円の場合、次のように減額されることになります。

現行 42 万円×59.28=2489 万 7600 円

2013 年 1 月より 143 万 6400 円減額

2013 年 10 月より 287 万 2800 円減額

2014 年 7 月より 406 万 9800 円減額

35 年以上は支給月数が増えることなく、俸給月額の上昇もほとんどありませんので、この 12 月中に退職する場合と 2014 年 7 月以降に退職する場合とでは 407 万円もの退職金が減ることになります。俸給月額が 42 万円の場合、年収は約 700 万円ですので、実に年収の 6 割近くが消えてしまいます。

## 閣議決定の性格と他大学での動き

政府は退職手当切り下げの方針を今年 8 月 7 日に決定しましたが、その際の閣議決定に「独立行政法人の役職員の退職手当については、国家公務員の退職手当の見直しの動向に応じて、通則法等の趣旨を踏まえつつ、今般の国家公務員の退職手当制度の改正に準じて必要な措置を講ずるよう要請等を行う」とあります。

国家公務員時代からの承継職員については、国が運営費交付金として措置することになっており、その措置額は 11 月 16 日改正の「国家公務員退職手当法」に基づいて行われるため、国立大学法人も対応を迫られざるを得ません。すでに組合に対して退職金の減額が提案された大学もあります。組合との協議もないまま、対応策を全学に公表するという不当労働行為を行った大学もあります。

## 12 月 13 日(木)に団体交渉を開催

いうまでもなく、退職金の引き下げは就業規則の不利益変更です。しかもその影響は甚大なものです。本学使用者は、どのような対応策を打ち出すのでしょうか。

本学では、12 月 13 日(木)の 15 時から学長出席のもとに退職手当問題に関する団体交渉を開催することになりました。団体交渉にご注目ください。

	熊本大学教職員組合	
	No.17 2012. 12. 5	内線:3529 FAX:346-1247 ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp <a href="http://union.kumamoto-u.ac.jp/">http://union.kumamoto-u.ac.jp/</a>